

2004年10月30日 全体会議 議事録

場所 和歌山市民会館

【開 会】	司会 I.M. S.A.A	井 上 晴 喜
	”	和 田 貴代美
【点 鐘】	ホストクラブ会長	松 本 良 二
【君が代、奉仕の理想 斉唱】	ソングリーダー	田 端 順 三



【開会の挨拶】 I.M. 実行委員長 信 川 昌 通

皆さん、こんにちは。2つだけご説明させていただきます。

ひとつは、プログラムの表紙に載せておりますロータリー誕生の写真でございます。8月号のロータリーの友には120万人を擁する組織はたった4人で始まったとあります。

皆様は誰がポールハリスかおわかりでしょうか。創立7周年のアゼリアロータリークラブでは、ペ・ヨンジュンは知っててもポールハリスは知らないというメンバーがまだまだ多くいると思います。本日の会議では、少々オーバーですがとにかく毎年10%ずつメンバーが減っていきますと、10年でもとの4人に戻ってしまいますという意味で付け加えさせていただきました。

もうひとつは、アンケートでございます。地域活性化のアイデアは同じ地域に住む多くの人達に教えて頂こうという思いで行いました。昨日までに72名の方々から熱心なご意見をお寄せ頂きました。今から行いますパネルディスカッションの中でも、このご意見をふまえて議論して頂きます。



最後になりましたが、アンケートの回答の中で私が一番心の残ったご意見をご紹介します。たぶん皆様も同じ思いになられると思います。和歌山市にお住まいの 65 歳の男性から頂きました。

「ロータリークラブやロータリークラブの会員個人が事業主体となった活動に期待いたします。そして、私達市民を巻き込んで行って下さい。費用だけを協賛するのではなく。」

本日は最後までよろしくお願い致します。

【歓迎の挨拶】

ホストクラブ会長 松本良二

3 組の皆さん、こんにちは。本日小雨降る中ご出席頂きまして誠に有難うございます。アゼリアメンバー同心から歓迎申し上げます。

さて、今年の夏は本当に暑い夏でございました。夏が過ぎたかと思うと台風が 10 組も来襲し、日本全土を暴れ廻り、被害をもたらしました。そして、去る 23 日、新潟県中越地方に大地震が起これ、重大な被害をもたらしました。何か最近になって緩やかな季節の移り変わりというものが感じられなくなってきましたが、こういうことが起こりますと、天変地異が起こらないかと不安にさえなります。今日の私達の不安は皆様が途中で帰らないかという不安でございます。出入り口には見張りも立てておりますので必ず最後までご参加の方よろしくお願い致します。



さて、前窪ゼネラルリーダーのご指導のもと、本日、インターシティーミーティングを開催出来たことは私達アゼリアロータリークラブ会員一同にとり大変な喜びであります。一所懸命努めさせて頂きますが、不行き届きな点、不手際な点が多々あるかと思えます。そのときはロータリアンの寛大なお心を持ちまして見守って頂きたいと思えます。

本日の IM のテーマは中島ガバナーが提唱されました「地域の活性化」でございます。地域を失くして日本を語れず。まず地域から取り組まねばならないと思えます。地域が元気がないからロータリーが元気がないのではなく、ロータリーが元気がないから和歌山も元気がないと捉え、もっとロータリーと地域との関わり合いを持ち、積極的に地域に貢献してこそ奉仕への理想へと積み上げていくのだと思えます。そして先程の地震の件でございますが、地区からも義援金を予定されていると思うのですが、アゼリアが自発的に行いまして、入り口受付に義援金ボックスを置いておりますのでよろしくお願い致します。

最後に本日の IM が、今後のロータリーの活動におきまして有意義に活かされることを願ひまして歓迎の挨拶とさせて頂きます。本日は有難うございました。

【ガバナー挨拶】

ガバナー 中島治一郎

皆さんこんにちは。皆さんには貴重な土曜日を犠牲にして頂きましてここに足をお運び頂きまし

て心よりお礼申し上げます。地域社会を元気にしようということで共通のテーマで IM を進めて参りまして、大阪の 3 組、そして和歌山の 2 組の合計で 5 組でございます。地域社会の活性化というのも色々切り口がありまして感心いたしましたけれども、ある組は「健康」を取り上げられまして、文字通り地域の方々に健康になってもらおうということで健康面のお話をされました。あと 2 組は経済面的な切り口でお話を進められました。例えば、堺の 8 組は 14 区ございますが、堺では今から 5~600 年前、中世では盛んな商業都市でございました。ヨーロッパでは堺に勝ったのはベニスだけでございまして、ロンドンも堺よりも下だったわけでございます。しかし今はかなり衰退いたしまして、これをもう一度あの中世の時の堺に戻せないかという熱心な討議をなさったわけでございます。そういうことがきっかけで堺が元気を取り戻すということを中心より期待している次第でございます。

今日はまた皆様方は非常にバラエティに富んだ優秀なパネリストにお揃いになりまして、地域の活性化についてお話をして頂くわけで楽しみにしてまいったわけでございます。ここは大変素晴らしい施設で、和歌山アゼリアの方々におかれましては、周到なご準備をして頂き、心から感謝申し上げます。皆様方におかれましても、こういうホストの誠意に応えるべく、先程松本会長が申されましたように出来るだけ最後まで非常に関心を持てるようなパネルディスカッションに耳を傾けるようにしたいと思います。



先程申しましたように大阪で 3 つ、和歌山で 1 つ済ませましたが、この 4 つのいわゆる IM の共通の点は観客席が減らないということでありまして、ずっと 4 組とも最初におられた人数そのまま最後まで残られていて熱心に討議に参加していただきました。ここ、和歌山 3 組におかれましても、同じ現象を期待している次第でございます。

第 1 組の紀南の皆様方が先週、ディスカッションをなさいました。新宮の市長さんとか、串本、那智勝浦の町長さん等が参加なさいましたパネルディスカッションで、今度 4 月の 16、17 日に行います私共の地区大会を取り挙げられました。そして、この地区大会が契機になりまして彼らの地場産業でございます観光業の支援をしたいという意見がありまして、首長さんをはじめ熱心にご討議なさいました。これをきっかけにどう地域地場産業を発展させていくかという内容に興味津々でございまして、皆様方の手帳に是非 4 月の 16、17 日には新宮・串本・那智勝浦へ行こうという風にお書き込み願いまして、私達の地区大会を通じまして紀南の方々の地場産業を振興のためのご努力にお手を貸して頂きたいということを中心より言及したい次第でございます。

前窪パストガバナーのリーダーシップのもと、今日は本当に内容のあるディスカッションで私達を楽しませてくれると思います。お互いにエンジョイさせて頂きたいと思います。以上で挨拶を終わらせて頂きます。有難うございました。

【ゼネラルリーダー挨拶】

ゼネラルリーダー 前 窪 貫 志

皆さんこんにちは。まずアゼリアロータリークラブの皆さんに御礼申し上げたいと思います。ご指導とかおっしゃって頂いておりますが、私は何もしておりません。それにも関わらず、このようにちゃんとして頂いております。1つ残念な事は、最初のパンフレットに大橋市長がトーキングに参加して頂けるということになっていたのですが、今日、文部科学省の大臣が来ましてタウンミーティングをやるという事で急遽変更になったという事をご報告申し上げたいと思います。本来なら知事が出席すべきところですが、海外出張の為、市長が出席される事となり、市長の代わりに私がパネリストを務めることとなりましたので後ほどもよろしくお願い致します。



先程「地域の活性化」という事を中島ガバナーがおっしゃいましたが、IM では当然取り組んでおります。私は今年当地区の社会奉仕のカウンセラーをお受けしております。それも地域の活性化という事で、同一符丁でやっております。ただ、本年変わっておりますのは、地域の活性化と言いますと、今までのロータリークラブでいきますと、全面的に外へ出て行きましょうという事になります。ロータリークラブではご存知の通り、4大奉仕、クラブ奉仕・職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕ということになっておりますが、対地域社会ということになりますと、職業奉仕と社会奉仕が重要になってきます。前田パストガバナーのカウンセラーと一緒に3つに分けてそれを進めるような委員会を持って今年は進めてまいりました。そういう事も含めて後ほどの討論会の中でご報告したいと思います。本日はたった3時までですのでご協力お願いしたいと思います。本当に本日は有難うございました。

【地区役員、地区委員紹介】

ゼネラルリーダー 前 窪 貫 志

【祝電披露】

司会 I.M. S.A.A 井 上 晴 喜

【参加クラブ出席報告】

登録委員長 出 口 義 展

和歌山ロータリークラブ	28名
和歌山東ロータリークラブ	28名
和歌山南ロータリークラブ	29名
和歌山東南ロータリークラブ	20名
和歌山西ロータリークラブ	13名
和歌山北ロータリークラブ	24名
和歌山中ロータリークラブ	31名
和歌山城南ロータリークラブ	21名
和歌山アゼリアロータリークラブ	40名
合計	234名



パネルディスカッション
テーマ

「地域の活性化」

【パネリスト】

宮 根 誠 司（おはよう朝日キャスター）

堀 内 秀 雄（和歌山大学助教授）

前 窪 貫 志（ゼネラルリーダー）

西 平 都紀子（紀州よさこい委員長）

【コーディネーター】

小 田 章（和歌山大学学長）

【司会・進行】

笠 野 衣 美（テレビ和歌山アナウンサー）



アンケート調査

2004.10.9 ニュース和歌山

- Q.1** あなたが知っているロータリークラブの活動を教えてください。（○印でお答えください。※複数回答可）
A. 在日留学生への奨学金制度 B. 海外ロータリークラブとの青少年交換プログラム C. 青少年のリーダーシップ育成のための活動
D. 少年野球・柔道大会等 E. 盲導犬育成基金の募集 F. 世界からポリオを撲滅する運動 G. 青少年不良化防止運動
H. 薬物乱用禁止ダメゼッタイ運動等 I. 新世代“共育”賞
- Q.2** 私たちの街を元気にするアイデアがあれば教えてください。
- Q.3** 今後、和歌山アゼリアロータリークラブに期待する活動等があれば教えてください。
- Q.4** 上の記事を読んで和歌山アゼリアロータリークラブについて、どんな感想を持たれましたか？
A. 好感を持った B. 興味を持った C. 賛同しかねる D. よくわからない E. その他

笠野：早速パネル討論に入らせて頂きます。それでは改めてご紹介させて頂きます。ABC 朝日放送「おはよう朝日」キャスターの宮根誠司さんです。和歌山大学助教授で和歌山 NPO センター理事長、堀内秀雄さんです。今回インターシティミーティングゼネラルリーダーの前窪貫志さんです。そして全国のロータリークラブでも珍しい女性会員が半分を占めるという和歌山アゼリアロータリークラブ会員で紀州よさこい委員長を務めていらっしゃる西平都紀子さんです。コーディネーターは和歌山大学学長、小田章さんです。小田さんは大変スポーツ好きな学長さんでいらっしゃいます。これからのテーマは「地域の活性化」についてお話を進めてまいりたいと思います。このたび和歌山アゼリアロータリークラブは地域活性化のための奉仕活動をテーマにアンケート調査を行いました。これについてまずは前窪さんからご説明して頂きたいと思います。

前窪：アンケート調査は Q1～Q4 までございます。最終の回答数は 75 通です。和歌山市内全域で 17 万 2 千部配布したにも関わらず、回答数並びにロータリーの認知度が低いのに愕然としております。ただ、希望的に推測すれば、多分この 100 倍くらいの方がロータリーを知ってくれていると思います。

笠野：有難うございます。では、この結果を踏まえましてどんなことをお感じになられたかということをお伺いしていきたいと思います。まず西平さんは会員としてこのアンケート調査を事前にご覧になられてどうお感じになりましたか。

西平：はい、やはりロータリーの会員としてビックリしましたのがずっとロータリーが続けています米山奨学金制度や青少年交換プログラム、こういった事業に非常に認知度が高かったということで、大変驚くと共によかったなぁと感じております。あともう 1 点は、我々アゼリアロータリークラブが行っております盲導犬育成基金のことでございます。こちらについても同時にアンケート調査と一緒にこういった事業かとお出させて頂いていたのですけれども、たくさんの方の和歌山の方に知って頂けたということで非常に有難く思いました。



それから「ダメ絶対運動」なのですが、こちらのほうに関しましては、和歌山駅の地下広場の方に掲示板がございます。そちらの方の影響が大きかったのかなぁと思っております。いずれにしても、今回のアンケート調査につきまして、ロータリーが行っております事業につきまして私が思っていたよりも認知度が高いものだとということで非常に安心致しました。以上でございます。

笠野：有難うございました。続きまして、NPO センター理事長でいらっしゃいます堀内先生ですけれども、堀内先生は NPO 活動を色々されておられますのでロータリーの活動は NPO 的と言えば NPO 的と思えるのですが、そのあたりを含めまして何をお感じになられているかをお願い致します。

堀内：はい、今笠野さんがおっしゃった通り、全国で NPO 法人が 1 万 7 千ございます。関西で 7 千です。皆さん和歌山でどれくらいあると思いますか。今 110 ほどでございます。ロータリークラブの活動を私がお聞きしていると、ロータリークラブそのものが社会貢献活動、社会奉仕活動と

いう点では NPO、あるいは NPO 法人の先輩格なんですね。今、数字を見てみますと、認知度が高いか低いかという議論なんですけど、私は、知っている人は知っているけれど、もっと多くの参画とか協力を得ようと思えば、今の数を見直すという視点がいるのではないかと。そういう点では NPO 社会貢献活動の先輩格なのですが、ややマンネリズムな所もあるのではないかと思います。これからはロータリーの皆様方は、企業や社会活動でのある面では成功者でありパイオニアであるのですから、是非市民活動をリーダーの役割、あるいはプロデューサーの役割をこれから是非引っ張って頂きたいと。そういう意味では我々 NPO センターのいろんな NPO 活動での協力、共同をしながら一緒に活動していけるのではないかと考えております。

笠野：有難うございました。では、宮根さん、今までのお話をお聞きになってお感じになっていることをお願い致します。

宮根：はい、ロータリークラブの認知度という話なんですけれども、私仕事柄ロータリークラブのミーティングなどにお招き頂くことがあるのですが、ロータリークラブを知っていることは知っていると思うのですが、ただ、なんとなく敷居が高いんじゃないかと一般の方々やロータリークラブとのなんらかの敷居があるのではないかと。どんな所なんだろう、事業活動もなんとなく分かっているけれどもどういう人達がいてるんだろうという、ロータリークラブにいらっしゃる方のお一人お一人の顔が見えてこないというのが実情ではないかと思うんですね。ロータリークラブがこれだけいろんな単位があったりしているわりには 1 つの単位のロータリークラブの個性はなかなか見えてこないと思います。今回アゼリアロータリークラブって和歌山にありまして、変わった感じだなあとかすごく新しい展開だったり団体だったりするなあという部分を私は感じたのですが、ロータリークラブという基本理念を元にして、ここから 1 つ 1 つのロータリークラブで地域地域の個性とか顔というのがもっと出てもいいんじゃないかなあと思います。和歌山はこんな感じだなあ、大阪はこんな感じだなあというロータリークラブの得意分野があっても面白いんじゃないかなと僕は思いますね。

笠野：なるほど。みんな同じロータリークラブじゃなくていいという意見ですね。では前窪さんはこのお話を聞いて、またアンケート調査をご覧になってどのようなことをお感じになりましたか。

前窪：はい、このアンケート結果で見ますと、少し詳しくいきますと、年代が 10 代から 70 代まで 75 通返ってきているわけなんですけど、1 番多かったのが 50 代、次からは 40 代、30 代となっており、それから 10 代も 20 代もないのかなと思ったのですが結構あるんです。パーセントで言えば 7 ~ 8 % です。これは全世代から言えば受け入れられている気がします。もう一つは今宮根さんがおっしゃって頂きましたクラブ自身の顔があってもいいんじゃないかというご意見でしたが、今までのロータリーはご存知の通り「I Serve」ですから、ロータリアン個人が地域社会を通して職業を通じてサービスしましょうというふうに来てきておりますので、地域社会の人々の目に触れることが少なかった。そしてもう 1 つは、自己満足的と言えそうですけど、我々がやっていることを地域社会は解っているだろう、敷居が高いと言われればそれまでなんですけど、高い理念の中でロータリアンが意識を持てたのではないかと。今はかなり時代が流れてきてありまして、私も去年ガバナーをさせて頂いた中で 76 クラブ地域があるんです。堺以南、和歌山県下全域とその中で 76 クラブあるのですから 76 通りの形があってもいいんじゃないかと提議してきましたし、皆さんにそうやって頂きたいと。当和歌山市内でも今ここで 9 クラブありまして、アゼリアはその中の

1 つです。和歌山クラブに至ってはもう 67~8 年の歴史を持っております。そういうことですから当地区は和歌山クラブが核みたいな形で今 76 名いるというのが実状なのですが、そういうことで、特に宮根さんには理解願いたいのですが、ライオンズは「WE Serve」、クラブでサービス、そしてロータリーはどうしても「I Serve」ですから、職業を通じてという話がそこで出てくるわけですね。ここに座っている皆さんは職業奉仕といえはすぐ分かるんですが、一般の方が非常に理解しにくいということがありまして、職業を通じての奉仕というの少なくともここで切り替えていって一般の地域社会の人々にご理解頂ける方向の奉仕であってもいいんじゃないかというふうに私は考えておりますし、今年はロータリーが出来てここにありますように 1904、5 年ですからちょうど 100 年目なんです。101 年目から少しロータリーも様変わりしていこうかということで世界的にもそういう動きになっているんじゃないかというふうに思います。以上です。

笠野：はい、ありがとうございます。さあ、それではですね、続きましてアンケートの 2 つ目、「私達の町を元気にするアイデア」を聞いておりますのでこちらの方からいきたいと思います。ここからは小田先生に進行の方進めて頂きたいと思います。お願い致します。

小田：今笠野さんがお話しくださったようにアンケート調査で今日の基本的なテーマですが、町の活性化どうするかそのアイデアを挙げて下さいということではいくつか挙げてもらっております。その話に入らせて頂く前に、大学の学長と致しましてロータリークラブの皆さんの御礼申し上げたいと思いますが、米山奨学金制度があるということで、うちの留学生等に多大の奨学金をご支援頂きましてこういう高い所からではございますが御礼を申し上げたいと思います。なお、今後とも更にですね、ご支援を頂ければ、我々現在 140 名の留学生を抱えておりますので、非常に生活に苦しい学生が多くいまして、大学もいろんな支援をしておりますけれども、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは早速町を元気にするアイデアということでいろいろ頂いております。例えば、一人一人が出来ることからやっいていこうとか、あるいは企業誘致や人口増加策を考えましようとか、あるいはイベントを自分達の手でやろうとか、そういういろんなアイデアを 69 名の方々が書いております。その中には大きなものから小さなものまであります。例えば私が読ませて頂いて 1 つ思ひましたのが、みんなで挨拶運動をしようではないかと、非常にお若い方ともう 1 名と 2 名が書かれてたんですが、こういうのはやろうと思えば非常に簡単に出来ることだと思ひのですが、そういうことをパネラーの皆様方のお手元にどういふ意見があつたか資料を配られていふと思ひますので、そういうことをベースにしながらお一人ずつ和歌山の町を活性化するアイデアというものをご自身の体験、あるいはお考えをもとにご紹介を頂ければと思ひております。まず順不同でどなたに指名するか分かりませんので心おきして頂きたいと思ひます。まず堀内先生、先程 NPO の和歌山理事長をされているのですがそういうような立場からですね、町の活性化をいろいろ工夫されていると思ひますがどうでしょうか。

堀内：はい、NPO の立場から言ひますと、今までこれは和歌山県民の資質というのだけではなくて日本国民全体がそうなのですが、ややもするとですね、市民活動とか人民運動は要求型とか反対運動型が主流だったわけですね。そしてバブルがはじけて失われた 10 年、15 年以降は市民も自分達で町づくりの責の一端を担うというふうには流れは変わってきました。で、このアンケートを見させて頂くと、共同システムの構築とかいろいろ提案があるわけですがけれども 1 つはですね、さっき

学長がおっしゃいました「ないものねだり」という議論をする時に、「ないものねだり」をするのではなく、今和歌山が持っている資源で、「ないものねだり」から「あるもの探し」をするという視点をしっかりと持つべきだと思います。別の言い方をするとそれは存在価値を使用価値とか利用価値に高めていくということが非常に大事だと思います。今、新和歌とか雑賀崎とかは惨憺たる状況でありますけれども、日本のベニスだとかイタリアの海辺とよく似ていると言われながらですね、非常に落ち込んでおります。また中心市街地活性化の問題も非常に深刻な問題であります。和歌山の持っている資源を国の統計とかで40位だとかブービーだとか嘆いていないで、宝とか価値をもう1回再発見するという視点からNPOと企業、あるいはNPOと行政の関係を再構築していきたいと。NPOとはノン・プロフィット・オーガナイズーション（非営利組織）ですけれども、もっと発展的に我々はニュー・プロフィット、新しい価値を作るというふうな意識で市民活動しておりますし、そういう点ではロータリーさんや企業さんとも合わせて、経営的な能力も高めながら和歌山の町を活性化していきたいというふうに考えております。

小田：堀内さんは行政の出身でいらっしゃいますが、和歌山に限らず地方はそういう傾向が強いのではないかと思うのですが、行政頼みが非常に強くあるんですが、先程そういうところから少し官から民へ主体を移りかけているというお話だったのですが、そのあたりをちょっと伺いたいなど。

堀内：そうですね、これはロータリーの活動にケチをつけているのでは決してないのでご容赦して聞いて頂きたいのですが、例えば米山留学生の資金の問題などいろんな活動があるわけですが、誤解を恐れずに言えば、ロータリーさんの活動も町づくりを視野に入れるとしたら何かを与えるという慈善型から変えるべきではないかと私は思っているんですね。一緒に考え、一緒に行動し、一緒に新しい価値を作る、その職業を通してという、ある意味では成功者あるいは先駆者としての能力をお金や仕組みで提供するのではなく、ロータリーの皆さんのキャリアを活かして一緒にやっていくような仕掛け作りがあるのではないかと。そういう意味で言いますと、私は大阪人ですが、市民の中にまだ行政にやってもらう、企業に寄付をもらう、ロータリーから何かもらうという発想の転換が必要だと思います。厳密にはそうはならないと思いますが、お金ややる気、行動力では合わせてフィフティ・フィフティで、お互い対等で新しい価値を作るといようなシステムというか、雰囲気を高めていくというのが重要ではないでしょうか。

小田：官といいますか、行政の役割というか、今の経済の逼迫の中からそういう形で民活を活用するように出てきております。ロータリークラブも基本的な理念とした奉仕という言葉が重要なキーワードになってきております。そして奉仕と言いますと、誤解されるとすればある物から与えていくという形になるんですが、もちろん与えて頂くにしても与えられる側が今堀内さんがおっしゃったように同じ土俵で、同じ目線で作り上げていくということが必要じゃないかと、そういうふうな民の活動、ロータリークラブを含め民の活動がこれから非常に大事になってくると、それが町の活性化に繋がっていくんだろうというお言葉ではなかったかなと思います。

続きまして、町を活性化するいろんなやり方、考え方があるんですが、和歌山にいろんな年齢層の方に参加してもらって新しい踊りのグループを作ろうと「紀州よさこい踊り」を企画して、JCの理事長をなさっている頃から手掛けられまして、今はその委員長をされている西平さんから、こういうものを中心にして町を元気にするアイデアを披露して頂けたらと思います。

西平：ありがとうございます。先程小田学長の方からお話もありまして、今年の7月25日に各口

ロータリークラブさんから大変なご協力頂き「紀州よさこい祭り」を開催させて頂きました。このお祭りなんです、ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、我々実行委員会メンバーというのは本当に普通のいろんな仕事をしているメンバーが和歌山を元気にしたい、なんとか自分達も元気になりたい、そういう思いの中から何かないだろうか、それが町作り、人作りに繋がるのであれば何でもいいやということいろいろ検討した結果、やっぱりお祭りがいいんじゃないか、でも普通のお祭りではなくてお年寄りから子供までもちろんいろんなコミュニティが生まれてくるような、そんな事業がいいんじゃないかということで今回「紀州よさこい祭り」を行いました。で、そちらにつきましてはこうや高野・熊野が世界遺産に登録されるということでそれにちなんで開催したわけですが、このお祭りについての思いというのは、1つのものを民間で考え、それに対して行政も入り、学校も入り、いろんな企業さんが入って頂いて大きくしていく、それが1番の狙いです。実際に1500万円くらいかかったお祭りなんですけれども、補助金は一切頂かずに各企業さんを回らせて頂いて、なんとかご参加して頂けませんか、踊りに参加するのではなくて、和歌山の活性化のため1つ事業をさせて頂きます、そこにご協力頂けませんか、ということで各企業さんを回らせて頂きました。無事1500万円というお金が集まって開催出来たわけですが、あとこのお祭りについて、ずっと今いる子供達が大きくなったときに、大学とか就職とかで他府県に行かれることがあると思います。そんな中でもこのお祭りのために、この日のために和歌山に帰らないとダメなんだ、そういった地元の、故郷を愛する心を今の子供達に伝えていきたいと思ひましてこのお祭りを開催させて頂きました。私もロータリー会員ですのであまり激しいことは言えないんですが、実際堀内先生からお話があったように、今のロータリーは何年前と違って、「ロータリーしかなかった時代」から今は「ロータリーもある時代」になっていると思います。元々かなり前ではロータリーの活動は非常に素晴らしい活動をされていたかと思ひます。ただ、その頃と同じ活動をずっと続けていくというのも大事でしょうけれども、でも私が思う中では皆さんそれぞれお仕事をされているのですから、そのお仕事を通じて、また会社にはたくさんの社員もいますし、また家族もたくさんいますし、親戚もたくさんいるかと思ひます。そういった中でもっと今のいろんな団体がしている事業だけではなくてロータリーだけしか出来ない事業というものがきっとあるかというふうに思ひます。ですから目先というのではなくて、単年度制だからというのでもなくて、1つ地区とか各クラブでも構いませんから3年後を見据えた1つの目標を立てて何かロータリーらしい、もっと出来ることをやって頂ければなあというふうに思ひますし、私もそういった中でまた頑張らせて頂きたいというふうに思っております。以上です。

小田：西平さん、「紀州よさこい祭り」とロータリークラブとの関係はどうなのでしょう。

西平：実行委員会は全然関係ないんですが、ロータリークラブさんにはいろいろたくさんご協力頂きまして、開催させて頂いたということでございます。

小田：日本人というのは非常に祭りが好きで、私は大阪人で堺という所に住んでいるんですが、岸和田のだんじり祭りとか中百舌鳥のふとん太鼓とかいろんな名称をつけて、和歌山でもそう思うんですが、9月の始めから11月の始め頃まで毎週土・日に行われているということです。日本人というのは非常に祭りが好きな民族ではないかと思うんですね。そういう意味ではこの「紀州よさこい祭り」を「継続は力なり」とよく言いますが、継続させるために和歌山県民全員が県の名物事業として、是非ロータリークラブの皆さんもお越し頂いて、我々もいろんな形で支援していけたら

なと思います。大学の学生も大分関わっておりますね？学生たちにもこういうことに参加するという意識がかなり高まってきております。大学も 5000 人の学生を抱えておりますから、これが町へ出て皆さんと一緒にわいわいガヤガヤすることによって、そういうことを通じて町の活性化、元気をつけるということに貢献出来るのかなと思っておりますし、あまり強制してはいけませんが学生の参加あるいは教職員の参加を促していきたいと思っております。どうもありがとうございました。

今日はロータリークラブの会合なんですが、前窪さんね、堀内先生や西平さんから話があったんですがロータリークラブはいろんな取り組みをされているんですが、ご存知ない方もございますので1つ2つ挙げて頂けますでしょうか。

前窪：実はこの席、大橋健一市長が当然座るべき所だったんですが、今の和歌山市の現状を市長の代わりと致しましてご報告をしたいと思っております。なぜ地域の活性化と言いますと、今我々和歌山市民1人あたり90万円の借金があります。市全体では約3000億円くらい抱えておまして、あっという間に赤字転落寸前という1つの事実です。今、大橋市長が非常に苦労しているのが負の遺産であるスカイタウンつつじヶ丘の処分、遅れている下水道事業、これらは全て非常に予算が必要となる大変な事業であります。それと大橋市長が頑張っているのは教育のパワーアップというか、子供の教育に関して非常に熱心に取り組んでおられるということでありまして、何をやっているのかというと、「校区トーク」と言いまして小学校単位で討論会をずっと持っているみたいなんです。それは若い人に対してで、それから前市長が残しておりました年寄りだけバスが2日間で2回無料になるとかお風呂が無料になるとかを全て見直して、「ジョイフル愛のサービス」について私も委員会に入っていたんですが、私の顔を見て、「65歳はお年寄りではないな。和歌山は70歳からがお年寄りだ。」と緩めまして、県を通して100円でどこへでもいけるバスやお風呂などは復活してみたいですが、ただし5年先になって65歳が70歳になったということで非常に苦しんでやりくりしております。今最大の問題は貴志川線の存続というのが1つ問題であります。こういうことが和歌山市に非常にあります。で、結局ロータリークラブの部分で刑務所に慰問だとか、少年野球だとか、サッカーに手を出すとか、いろんな部分を各クラブでやって頂いております。1つ有難いことは阪神淡路大震災以降、「ボランティア」という言葉がメジャー化してきたなあと。で、それぞれ各個人の中に浸透しつつあるから今がチャンスだから是非広げてボランティア精神というものを日本人に広げていこうと。これは非常におかしな言い方なんです、私個人で今度も言おうと思っておりますが日本の将来を憂える人が多いんです。今の教育制度ではどうなっていくのかと心配している方が非常に多いと。だからそれを私は子供の時からボランティアそのものを単位の中へ、授業の中へ、そういう教育をロータリーが市長に申し入れして教育特区ですからそれを和歌山でやって頂きたいと。ただし、具体的にそうなるとどうなるかと言いますと、9年間の義務教育をする者を考えますと、義務教育をする人が今どういう教育をしているのかと明確に説明できる人がいないんです。だからそれを皆さんで一度考え直す、それから今度は高校や大学に行くときに内申書の中でボランティア単位というようなものを認めて頂けるようにするとこれも非常に早いスピードで定着するのではないかなと。だからロータリーもそういう中でアイデア、オピニオンリーダーになるべきだし、その上に今まである思いやりとか寛容とかその精神をのっけていけば非常に間違わずに進んでいけるのではないかと考えておりますので是非進めていきたいなあと。それを皆さんと考

えていきたいと私は考えております。

小田：どうもありがとうございました。3人のパネラーの皆さんからいろんな視点で町を活性化するあるいは町を元気にするアイデアを頂いたわけですが、宮根さんお待たせ致しました。今の3人のパネラーのご意見と、宮根さんはいろんな放送・メディアを通じていろんな方とお会いになっていると思いますがそういう方々から得られる町を活性化するというアイデアを是非和歌山に紹介して頂ければと思うのですが。

宮根：私はどちらかというとテレビ局ですと務めていた人間なんでエンターテインメントとかそういう部分しかよく分からないんですが、東京一局集中という時代がちょっとあったのですが、もうそういう時代もなくなってITがこれだけ発達してきますとどこにいても情報は流せる時代になってきまして、むしろ東京一局集中というのはこれからどんどんなくなっていくんじゃないかなと思うのですが、実際に歌手の皆さん



の活動を見ていると沖縄にいながら東京でメジャーになる、島根県にいてもメジャーになる、新潟県にいてもメジャーになるという、むしろ駅前で路上でライブしている人が大ヒットを生むという時代になってきております。これはインターネットの力が非常に大きいからだと思います。

東京一局集中からやっとなインターネットの発達で逆に地方の時代に戻ってくるのかなという感じがします。

それから関西全体にもいえることですが、特に和歌山は宣伝が下手なような気がします。考えたら和歌山は大変豊かな自然があって、おいしい魚がいっぱいあって、なおかつ閑空が近くにあると素人ながらいろいろ宣伝のしようがあると思うんですね。私は番組の企画なんかも手掛けているんですが、今大変マラソンブームですよ。最近の主流は、「前日申し込み」なんですよ。それで参加する人はいやでも前日現地に行って一泊しなければしょうがない。そうすると地元には大きな経済効果が生まれるわけです。和歌山は温暖で風光明媚な土地ですからぜひマラソン大会を企画して頂きたいですね。あと、プロ野球のキャンプを誘致するとか、いかに和歌山という自然に恵まれた、気候にも恵まれた場所にいかにたくさんの方を呼ぶかということテレビ局も、テレビ和歌山もテレビ朝日のネットワークの中に入っているわけですから、そういう点では和歌山はテレビ局と一体になって考えていけるすごくいい場所だと私は思うので未来は開けていると思います。

小田：どうもありがとうございました。

非常にいいお話をして頂きました。ただ、ちょっとお言葉を返すようで申し訳ないんですが、和歌山でもジャズマラソン大会というのを今年は7000人集まって開催したそうなんですよ。和歌山は「癒し」を1つの大きなテーマにしておりま



してこの頃そういう形が出てきてるのではないかなと。ただ和歌山の場合は前日申し込みではなかったのであまり知られてなかったんだと思うんですが、これは何年も前からやっているんですね。初めは小さなものだったのが今年は 7700 人参加者が集まったということです。あと、プロ野球のキャンプを誘致するということでは、和歌山の南紀の白浜の方に厚生年金保養施設があるんですが、それをぜひ市でも県でもいいんですが二束三文と言ったら失礼ですが、言い換えると払い下げという意味です。一軍の方はちょっと無理かもしれませんが二軍の方のキャンプにはいい所だと思います。そういう呼び込むということ、これはロータリークラブも産官学民一緒になってやれば和歌山県の活性化に繋がると思います。

もう 1 つ、「食べ物」についてなんですが、我々は月に 1 回「産業探検隊」行ってるんですが、この間はおつらぎ町へ行って柿の産地に行ってきたんです。実は皆さんご存知ないかと思いますが全国における和歌山の柿のシェアは 70% です。和歌山県民は人がいいというか、PR 下手な所があります。今度「おはよう朝日」へ柿を送りますので是非 PR してください。

パネラーの 4 人の皆様も工夫してお話頂きました。またロータリークラブの事業のアンケートの中でもお話が出たと思うんですが、「あいさつ運動」も非常に大事だと思います。特に世界遺産登録され、今後は外国の方もたくさん来られます。その時にあいさつは非常に大切だと思いますので特に小さい子供さんを中心にあいさつ運動を始めていったらいいんじゃないかと思います。市長さんが校区を回ってトークをなさるそうなので、その時に低学年の子供さんにあいさつの大切さを教えたいのではないのでしょうか。

次のテーマは「今後のロータリークラブに期待すること」です。ロータリークラブでは「奉仕」という言葉がキーワードとなっていますが、奉仕なのだからあまり前面に出ない方が本当の意味での奉仕に繋がってくると思うのですが、ロータリークラブの存在を多くの人を知ることも大事だと思います。与える者と与えられる者が同じ目線で同じ心を持って通じ合うということが非常に大事だと思います。そういうことも含めてアゼリアロータリークラブに期待することを皆さんご意見よろしくお願いします。まずは宮根さんからお願いします。

宮根：ロータリークラブの皆様はその町、地域を引っ張っていってくれるリーダーだと認識しているのですが、先程私が少しお話をさせて頂きましたが、やっぱりロータリークラブの一人一人の顔が見えないんですね。もちろん奉仕の活動は素晴らしいのですが、今は地域の活性化というのと地域の安全性がすごく求められていると思うんです。あいさつを一人一人していく、みんなの顔が見えるというのはとても大事だと思いますし、訳の分からない事件も多い。それからこれだけの天変地異、災害がありますと、地域の活性化と安全性が求められます。自分達がより住みやすく快適に暮らせる町づくりがこれから一番望まれていることだと思います。そういう点で地域のリーダーでいらっしゃいますロータリークラブの皆さんが「この町はいい町で安全で住みやすいでしょうか？」と引っ張っていただければ一番住んでいる方々が安心感と満足感が得られると思います。ですからロータリークラブの皆さんが先頭に立って頂いて、結果的にはその町を活性化して頂きたいというのと、あともう一つは先程学長がおっしゃいましたが、女性が多くユニークなアゼリアロータリークラブが誕生したことは一つのターニングポイントだと思います。地域の子供達から「ロータリークラブのおっちゃん」と親しまれるような、「このおっちゃん達が僕らの町を住みよい町にしてくれてるんだな」と思われるような、そんな距離感になれるといいなと思います。これは和

歌山に限らず大阪のロータリークラブでもお願いしたいなと思っております。以上です。

小田：東京あたりへ行くと、「おっちゃん」「おばちゃん」という言葉は敬遠されがちですが、関西では尊敬語ですから教育についても子供の親しみやすい言葉という意味でも「ロータリークラブのおっちゃん、おばちゃん」というのは非常にいいんじゃないかと思います。

前窪：隣の海南市では教育委員会とも上手くいっているようで「花いっぱい運動」、「花街道運動」という活動が学校中心に進められております。地域住民が教育に参加するには教育委員会の理解が必要ですから、こういう方法も一つの突破口になるのかなと思います。私も30年前くらいにPTAの会長をしていましたが、その頃から既に先生の「サラリーマン化」が進んでいました。やはり我々ロータリークラブが教育に関わっていくことも重要なことだと思います。これまでも留学生に対する奨学金を始めとする様々な協力を行ってきましたが、今後はもう少し対象年齢を下げた活動を行っていく必要があるのかなと感じています。

小田：今教育のお話が出ましたが、我々は日頃高等教育を行っているわけですが、やはり義務教育の段階でしっかり教育して頂ければ我々も非常に有難いと思うのですが、そういう視点で堀内さん、いかがでしょうか。

堀内：今、小学一年生から既に学級崩壊が起こっている所もあるという事態ですが、その背景に家族崩壊、家庭崩壊があり、そのもっとベースには地域崩壊があるといわれています。私も内閣府の青少年育成国民会議中央研究委員とかしておりまして、青少年健全育成に全国を飛び回っているんですが、子供達の問題は大人の問題であり社会の問題であるので、ロータリークラブの「社会奉仕」の精神というのは、もし奉仕を英語で「サービス」と訳した場合、主体が相手にあり、自分は一步引くというニュアンスが込められているのなら、非常に優れているというふうに思います。

教育の話から外れますが、「ロータリーに期待すること」ということを二点あえてもう一回申し上げれば、もう少し戦略的、地域興しの事業というか予算配分を見直して欲しいというのが一点であります。いくつか例を申し上げますと、私共のNPOセンターに関わっている高校野球というところで、和歌山は高校野球が非常に盛んなわりには野球博物館がなく、これといったものは何もありませんが「ないものねだり」から「あるもの探し」へという発想から考えると、もっと高校野球や少年野球のよさを日々地域づくり、あるいは子供の教育に活かすような発想で再構築することが可能ではないかと思っています。

もう一つはサッカーを例にとると、ワールドカップの時にデンマークのチームとの交流がありましたが、ご承知の通りデンマークは北欧型福祉の最も進んだ国であると言われております。せっかくの交流をサッカーだけに留めるのではなく、これを一つの縁として戦略的に教育や環境や福祉を含めた交流やホームステイなどを進め、いろんなことを学んでいくことも重要だと思います。そういう点からもロータリークラブの事業の戦略的、重点的見直しを図って頂きたいというのが一つの要望です。もちろん今までの事業の中で学生、留学生が非常にお世話になっていることは事実ですが、これまでのような慈善的与え方から一緒に共同して地域なり問題を解決していく方向の共同性みたいな発想を持って欲しいというのが一点、もう一つはロータリアンの皆さんのキャリアを最大化出来ないかということです。ロータリアンはそれぞれ人生のキャリアや職業のスキル、哲学が素晴らしいものがあると思います。それをもっと活かしたロータリーの活動をして頂きたいというのが私の願いであります。最後に「社会起業家」という本の中から社会をよくしていく人間の生き方、働

き方の 10 の極意を紹介させて頂きたいと思います。

1. 自分の好きなこと、楽しいことに夢中になろう。
2. 色々な人の喜び、悩み、夢を分かち合おう。
3. 効率を優先させない。何が大切かを見極めよう。
4. 可愛い子には旅をさせよ。可愛い子だけではなく自分も旅に出よう。
5. おかげさまの気持ちを忘れずにいよう。
6. あきらめから失敗する。成功するまで頑張ろう。
7. 人と競争するのではなく、人間関係のハーモニーを奏でよう。
8. 人生に無駄はない。一見マイナスなことから何かが見えてくる。
9. 人がどう思うかではなく、自分がどう思うかを大切にしよう。
10. たまには自分を褒めよう。

こういうことからロータリアンと和歌山県の持っている資源を合わせて「ないものねだり」から「あるもの探し」へ変えていこうと。今日は地域の活性化というシンポジウムですので、そういうところからヒントがあるのではないかと思います。以上です。

小田：ありがとうございます。和歌山大学にこんな素晴らしい先生がおられるので和歌山大学の将来は非常に隆々たるものだと思えました。確かに皆さんはお仕事をお持ちになりながらこういう奉仕活動をおやりになっているということで堀内先生がおっしゃったような社会起業家、斉藤さんがおっしゃる 10 か条の精神というものはお持ちだと思うんですが、それを更に前面に出して町の活性化に繋げていただければ堀内先生がおっしゃったように社会起業家としての仕事、役割を發揮していけるんだろうと思います。ここにいらっしゃる西平さんがデンマークのチームを当時 JC の理事長としてお世話しました。現在はアゼリアロータリークラブの会員として期待されていることがいろいろあると思いますが会長に代わって一言ご披露して頂きたいと思います。

西平：サッカーのキャンプにつきましては、私が JC の理事長の時に行われたのですが、JC もロータリーと同じく単年度で代表者が交代していきます。五年前のメンバーが和歌山を活性化するために何かいいアイデアはないだろうかと考えている時にちょうどワールドカップのチームのキャンプ地に和歌山を選んで頂くということで活動が始まりました。一人の夢が行政を巻き込み、和歌山県民の夢となって実現出来たということで非常に素晴らしい事業だったと思います。そういった中でロータリーは個人では実現しにくいことをみんなの力で実現していける場だと思しますので、各クラブでいろいろお考え頂きたいと思います。それと会長に代わってということですが、ここではアゼリアロータリークラブの長所についてだけお話したいと思います。アゼリアロータリークラブも創立から六年が経ちますが、最初はいろいろありました。しかし、女性ならではの明るさや華やかさ、それと男性の視点とは異なる意見が出ることです。特にアゼリアロータリークラブでは年に二回施設に慰問に行きますが、子供達にプレゼントを渡す時には女性が抱きしめて渡します。そういう姿というのはやはり女性にしか出来ないのかなと思いました。是非ともクラブの方にメッセージとして来て頂き、悪い所を指摘して頂き、いい所をクラブの方にお持ち帰りして頂けたらいいなと思います。以上です。

小田：ありがとうございました。それでは時間も押し迫ってきましたが、本日の紅二点のうちのもう一人の紅一点の笠田さんに何かお話して頂きたいと思います。

笠田：今日お話を伺ってロータリークラブの皆さんがこんなに一生懸命活動されているということに改めて感じました。女性の多いクラブもあるということで私の今まで抱いていたイメージとはだいぶ変わりました。これからは是非頑張ってくださいと思います。もう一つ、ロータリークラブの「いいおっちゃん」も必要だと思うんですが、私は子供がいるのですが今少ないのは「怖いおっちゃん」だと思います。親が恐くなれないものですから、親の代わりに近所の「怖いおっちゃん」が叱ってくれるといいなと思います。そして子供達が大きくなってあんな「怖いおっちゃん」「怖いおばちゃん」になればいいなと思っていただければいいと思います。以上です。

小田：今大変いいお話をされました。私達が小さい頃は近所の怖いおっちゃん、おばちゃんが他人の子でも悪いことをしたらよく叱ったものです。ところが最近はそういう光景も滅多に見られなくなりました。是非ロータリアンの皆さんは率先垂範して実行して頂けたらと思います。最後に我々全員が力を合わせて和歌山を日本の町に、もっと言えば今はグローバルな時代ですから世界の和歌山となりますように日々努力していけたらいいなと思います。本日は皆様お忙しい中有難うございました。

笠田：有難うございました。今日のお話の中から少し持ち帰って頂きまして地域で育てて頂ければと思います。本当に有難うございました。最後にもう一度ご紹介いたしましょう。パネリストの皆さん、宮根誠司さん、堀内秀雄さん、そして西平都紀子さん、前窪貫志さん、そしてコーディネーターは小田学長でした。今日はどうも有難うございました。

抽選会



閉会式

【講評】

ゼネラルリーダー

前窪貫志

ご苦勞様でした。私はご覧の通り、パネリストとして参加しておりましたので講評出来る立場にはありませんので差し控えさせていただきます。皆様方には地域活性化ということを是非浸透させて頂きたいと思います。ではどうするかと言う事につきましては各クラブでこれを起点として考えて進めて頂きたいと思います。本日は本当に有難うございました。

【総評ならびに次回ホストクラブ紹介】

ガバナー

中 島 治一郎

ご苦労様でございました。本日のパネルディスカッションは抜群でした。過去五回のインターシティーミーティングの中で群を抜いてよかったと思います。私自身も学ぶことが非常に多くありました。是非クラブに内容をお持ち帰り頂きまして、それを活かして頂きたいと思います。76 クラブ中 63 クラブ公式訪問して参りましたが、さすが 100 周年ということもありまして会員の減少にも底打ち感がございます。今年が転機之年になるのではないかと確信しております。

次年度は和歌山北ロータリークラブが担当して頂きます。そして今年の担当して頂いたアゼリアロータリークラブの皆様、更にはパネリストまで務めて頂きました前窪パストガバナー、本当に有難うございました。心から御礼申し上げます。これで私の総評を終わらせて頂きます。

【次回ホストクラブ会長挨拶】

和歌山北ロータリークラブ

得 津 勇

得津：皆様どうもお疲れ様でございました。只今ご紹介頂きました次年度 IM を担当させて頂きます和歌山北クラブでございます。実際私共が担当させて頂きます次期の会長エレクトをご紹介させて頂きます。楠見昭雄でございます。

楠見：来期会長ということになりまして、まさか IM を担当するとは存じませんでした。しかし引き受けたからには皆様方のご協力を得まして無事成功させたいと思いますのでよろしくお願い致します。有難うございました。



【閉会の挨拶】

IM 実行副委員長

掛 下 吉 三

本日は最後まで熱心にご参加頂きまして厚く御礼申し上げます。今回のテーマ「地域の活性化」を3組のクラブ全員で提言、実践出来れば幸いです。これにて閉会とさせて頂きます。



【手に手つないで】

ソングリーダー

白 神 修 次

【点 鐘】

ホストクラブ会長

松 本 良 二

- 以 上 -

各ロータリークラブ御中

和歌山アゼリアロータリークラブ

訂正お願い

IM記録の最終ページにお名前の間違がありました。
誠に申し訳ございません。
下記のように訂正をお願い申し上げます。

IM 3組 次期ホストクラブ
和歌山北ロータリークラブ 会長

誤 → 楠見 昭雄

正 → 楠見 皓生 様